

バシー海峡戦没者慰霊祭に参列して

去る11月21日に、台湾最南端のバシー海峡を望む「潮音寺」にて、バシー海峡戦没者慰霊祭が開催され、参列しました。今年で第7回を迎えた同慰霊祭は、2015年の戦後70年を機に第1回の慰霊祭が開催され、その後もバシー海峡戦没者慰霊祭実行委員会というボランティアの皆さんのご努力下、毎年開催されています。

台湾とフィリピン間に横たわるバシー海峡は、太平洋戦争末期、日本と南方の輸送を担った輸送船が、米軍潜水艦の攻撃で数多く撃沈され、“輸送船の墓場”と恐れられました。少なくとも10万人、最大26万ともいわれる多くの犠牲者がこの海峡で永眠しています。

慰霊祭の会場となった「潮音寺」は、バシー海峡を航行中に乗っていた輸送船が撃沈され、九死に一生を得て生還した中嶋秀次氏（2013年没）が、海峡に散った多くの同胞たちの霊を慰めるために私財と日本全国からの寄付金を投じて1981年に建立した慰霊施設です。中嶋氏亡き後、紆余曲折あり、存続が危ぶまれたこともありますが、現在は、中嶋氏の遺志を受け継ぐ鍾佐栄さんや潮音寺管理委員会といった台湾の方々の善意とご努力下で何とか維持されています。



バシー海峡を望む砂浜での献花。



潮音寺。台湾の方々の善意で維持されている。



バシー海峡戦没者慰霊祭。約60人が参列。

(バシー海峡戦没者慰霊祭実行委員会ご提供)



慰霊祭の様子。潮音寺本堂にて。

当日、慰霊祭には、台湾各地より約60人の方々が参列し、潮音寺の本堂にて、先の大戦で海峡に散った多くの犠牲者の御霊に合掌し、哀悼の意を表しました。潮音寺での慰霊祭の後は、近くの砂浜に移動し、海に向かって菊の花を献花しました。今年も、コロナ禍の影響で、昨年に引き続き、日本からの参列は叶いませんでしたが、慰霊祭の様子がインターネット経由でライブ配信され、日本からオンラインで参列された方も多数おられました。

台湾南部の墾丁は、現在では海が美しい人気のリゾート地となっていますが、今から約75-6年前の大戦末期には多くの遺体が打ち上げられ、台湾の皆さんの手により、茶毘に付されたとのこと。そしてその犠牲者、同胞の慰霊施設である潮音寺は、現在、台湾の皆さんの善意により、なんとか維持されています。記者自身は、バシー海峡戦没者慰霊祭への参列は、今年で4回目になりましたが、毎回、多くの犠牲の上にある現在の平和の尊さをかみしめると同時に、台湾の皆さんの日本や日本人に対する善意、友情、思いに、感謝の念を新たにします。

(高雄プレス記者)